

## 自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1 ○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は入居説明時に、家族に説明している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員に「人その人らしく」の意義を周知し、利用者のお一人ひとりに沿ったケアに取り組んでいる。		利用者主体の生活リハビリ等を行っている。
3 ○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居時に説明しているが、地域の人には理解されていない。		地域のふれあい交流などへの参加。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4 ○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度だがこちらから挨拶をするようにはしている。利用者様にも外出時には声を掛けて頂いたりしている。		
5 ○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとの町内の清掃作業には参加している。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組めていない。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・第三者評価に目を通し日頃の業務を新たに見つめ直す事が出来、より一層の努力をしている。利用者主体に考え日常業務や支援の改善に取り組んでいる。		職員にも自己評価の記入に協力を得ている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この1年は運営推進委員会を行っていない。		
9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は包括支援センター等へ行く機会もあり情報を得てサービスの向上を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している家族様から、話を聞く事がある程度。		職員にも制度を理解する勉強会を行う。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は理念を周知し利用者の気持ちになり、理解できるように努力している。身体の異常には注意を払い、異常があれば直ちに管理者に報告する。職員にストレスがたまらないように勤務表、日常業務等を配慮している。		利用者の精神面でも尊厳ある対応を心掛ける。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得	契約書や重要事項は説明して目を通し理解して頂いていると思う。今のところ退所に関してのトラブルはない。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	当ホームは利用者が自由に意見が言える雰囲気があり、管理者にも報告がある。食事の席も利用者様の様子を見て変えたりしている。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態が悪くなった時はその度に報告している。毎月、「暮らしのたより」や小遣い帳をお渡ししている。家族様の面会が有る事に暮らしの様子などをお話している。	○	毎月の「暮らしのたより」の発行を継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に相談窓口を記載している。職員に気軽にお話して頂くようお願いしている。		家族様等が面会に来られてもリビングで他利用者と一緒に過ごして下さったりして様子を見て頂いている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はシフトに入っており、日々職員と話し合っており、利用者主体の運営に努めている。		職員からの提案があれば検討し敏速に対応している事もある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事の時には、休みの職員もその時間帯に出勤しています。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は1ヶ月前に申し出るように言っている。当ホームは異動はない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には行ってもらっており、職員は個人的にも研修に参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が審査会やケアマネ会の勉強会に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事に対する意欲を持つために楽しく取り組める事をしてもらっている。管理者は職員が気軽に対話や相談ができるよう職員に声をかけている。全員揃う事は無いが食事会を行っている。		利用者主体は当然だが職員が働きやすい対人関係や職場の環境づくり。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は日々職員と接しているため職員個々の能力は把握できている。職員の能力が発揮できるように努めている。		専門職としての能力の向上。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行ったりホームに見学に来て頂き、入居者様と家族様から困っている事、不安な事を聞きとりをしている。本人の状態にもよるが本人からの聞き取りはあまり出来ていない。		
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族様がホームに見学に来られた時に利用者様の現状を聞きホームでどのような生活が出来るか話し合っている。		
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームで対応が可能か説明を行い、他のサービス利用についても説明を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学をして頂いている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はいつも笑顔と同じ目線で利用者様と接しており色々な知恵を教えて頂いている。職員から利用者様に常に「ありがとう」の言葉を掛けるように努めている。		お一人おひとりに目を向け、自尊心を持ち続けて頂けるような関わりと支援を行えるよう、利用者様と寄り添いながら、日々を共に過ごす事を心掛ける。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	認知症により忘れかけた事が多く、それでも日々の暮らしの中で、ふとした出来事から「もしかして…」と感じた時には、ご家族様が来られた時に過去のエピソード等を伺い、ご利用者様の出来る事を探り、生き生きとした時を支援出来るように、ご家族様のお力を頂いています。私たちが、よりよいケアをするために、ご家族様からヒントを頂いています。		ご家族様の目から見て、施設への疑問や要望など伺う事が出来るようにしたい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者様の家族に対する思いを探り出し家族に伝えたりしている。利用者様からご家族様の名前が出た時のエピソード等、ご家族様が来所されたとき等に出来るだけ伝えるようにしています。		利用者をホームに任せっぱなしではなく家族等にもご協力頂いている。季節ごとの服や寝具などの入れ替えや定期受診、理美容などの協力を得ている。ときの郷に入居を決めて良かったと思って頂けるようなケアを行いたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに知り合いが来られている時には、お互いに交流をされている。近くのスーパーへの買い物や散歩、行きつけの美容室への利用。		ホーム近隣の方々とも新たな馴染みの関係が築けるよう外出を増やし、挨拶を交わし気軽に会話が出来るようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが思い思いの日常生活を送っておられる。すぐに喧嘩をする方もおられるが職員はうまく間に入り干渉している。外出の時は利用者様が車イスを押したり、手をつないで助け合えるようにしている。食事の席などにも配慮している。		共同生活の中で、お1人おひとりがストレスを溜め込む事のないよう、一人ひとりに対するケアに心掛け、よりよい情緒の安定と心地よい居場所をつくる事で穏やかな気分で、互いに過ごせるよう支援する。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会に行ったり、相談を受けたりしている。		退所後の利用者様や家族様の方々に対しても大切に思う気持ちを持ち続けられるようなケアを心掛ける。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の困難な利用者様でも行動や表情など観察し、情報を共有しカンファレンス、ミーティング等で話し合い、利用者主体の生活をして頂いている。一人ひとりと向き合うことが増えている。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様から生活史の情報ををいただいたり、普段の生活の中で発見し分かることもあり、ある程度の把握は出来ている。情報をもとにその人らしさを受け止めている。昨年よりセンター方式の導入により把握がよりスムーズに出来るようになった。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は連絡ノートの活用、申し送り等によりスタッフ間の情報交換をこまめに行いつつケアにあたっている。	職員同士が情報を共有し、よりよい支援をしていく。
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様の生活歴、家族様の希望や思いを反映させながら、アセスメントをこまめに取り、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様の状況に変化が生じてきた場合、チームで相談し支援の方法を考えている。現状は期間毎の見直しが中心になっている。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段とは違った様子があれば、細かく記録し、情報の共有に努めている(介護記録) 1週間分をまとめて見られるように用紙を工夫したことで、より分かりやすく日常生活が読み取れる様になった(生活状況表) プランを立てる際の重要な手がかりとなる事も多い。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様や家族様からの意見、要望には出来るだけ対応するようにしている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学生の介護体験学習などの受け入れをしている。最近では近所の方の訪問もあり、大いに活力になっている。		地域との連携、関わり、資源を活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容は地域の店より訪問を依頼している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ取り組みがあまり無い。		今後、地域包括支援センターとの協働に努めていきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表が開業医で週に1回診察に来ている。定期受診は家族に対応をお願いしているが、急な場合は職員が対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関で協力頂いて相談出来る。家族が定期的に受診の対応している利用者もおられる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師に相談している。転倒やケガをした時の応急処置は対応してもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と連携し情報交換して早期退院に向けホームで対応出来るように体勢を整えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からは相談を受けている。常時、医療が必要で無いかぎり出来るだけ対応させて頂くがホームの対応にも限界がある事をお話している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限り今までの暮らしが維持出来るように対応し、家族様へも毎月「暮らしのたより」で状況を報告している。主治医と相談し当ホームで対応が可能か話し合っている。無理な場合は家族と話し合い次の入所、入院先を検討する。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報の提供、交換は行うよう努めている。この1年で入・退居者はなかった。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの対応や礼儀には注意し、介助もさりげなくするように心がけている。個人情報には職員一人ひとりが気を付けている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様と職員との馴染みの関係やコミュニケーションは良くできており、思いや感情表現はされていると思う。動作の表現も分かりかけており、利用者様の思いや希望は時間を費やし、聞き受け入れ職員間で伝達し共有している。		夕食時にビールを飲まれる利用者は希望されたら飲まれている。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事を優先しがちになるが、そんな中でも職員は手や足を止めて利用者様の希望にそえるよう努めている。外出は支援の体制が整えば出来るだけして頂いている。利用者様のペースに合わせてられない事もあるがその人その人にあつた生活パターンを継続出来るように配慮している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみには気をつかう利用者様は多く、同感し支援している。又、衣服の汚れが目についた時には、さりげなく更衣出来るようにしている。馴染みの理美容店に行かれる方は行って頂いている。外出の時はおしゃれをして頂いている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけや後かたづけを出来る方にして頂いている。食事前にメニューを読んで頂いている。個別に一口大のおにぎりや副食を刻みや1口大にして食べやすくしている。		食事やおやつを作る機会を増やす。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調に配慮しながら、ビールを嗜んでおられる方や、家族様の差入れで10時と3時に飴を楽しみにされている方もあり、健康に配慮しながら楽しんでもらっている。たばこは危険なので禁煙にしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムをチェックし、声掛けトイレ誘導を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日入浴となっている。体調などに注意しながら無理はせず洗髪など利用者の意思表示を大切にしている。シャワーをふんだんに浴び満喫される方もあり、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は1時間程、ゆつくりと休んでもらっている。体操やレク以外の時間は自由にして頂いている。夜よく眠れるように日中は活動をして頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から一人ひとりの得意分野を生かして、裁縫、野菜作り、花の育成などをして頂いている。散歩や歌など自らやりたい事があれば積極的にして頂いている。		役割を楽しみに生き生きと生活を楽しんで頂く。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の希望などを聞き、個別に管理し買い物に行く時に持って頂き支払いの出来る利用者様には支払いをして頂いている。お金に興味の無い利用者様もおられるが、お金を持っている事で安心される方は、お持ち頂いている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにスーパーがあるので買い物によく行く。一人ひとりに思いがある時は出来るだけ個別で対応している。近隣からの入居者様が多くおられ、馴染みの風景や知人に会う事を楽しみにされ、気軽に近所へ外出は喜ばれる。		家族にも外出支援をお願いしている。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や紅葉見物など季節のいい時に外食や弁当、おやつを持って行って、季節を感じて頂いている。		家族にも外出支援をお願いしている。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたい時、時間帯や先方に迷惑にならないければ事務所の電話で対応、支援する。年賀状や家族様から手紙が届いたら、手紙を書いて一緒にポストに投函しにも行く。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	皆さん気軽に来所されていると思う。リビングで他の利用者様と一緒に談笑して過ごされたり、居室で過ごされたりと自由にされている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は理解しており利用者の気持ちになり業務しており身体拘束をしないケアを心掛けている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目の行き届かない時や玄関が開いていると職員の制止を振り切って出て行ってしまわれ危険な事があり玄関を施錠している。利用者の状態のいい時は自由に行き来出来るようにしている。		出来るだけ施錠しないで対応していきたい。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通して事故の無いように声掛けや居所を把握している。		利用者の個人的なプライバシーの話しを利用者の前で大きな声で話しをしない。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類、刃物は事務所で保管している。はさみ、爪切りを持っている利用者もおられる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々のADL等の状態にあった対応を心掛けている。		事故防止の為に今後、勉強会を行う。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成している。		全ての職員が対応できるようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っているが、まだ地域や消防などに協力の働きかけは出来ていない。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	今後に身体的な変化で心配される家族もおられる。体調に変化があれば家族に連絡を入れ対応を相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の勤務の引き継ぎなどで申し送りをしており情報の共有は出来ている。代表がドクターで毎週水曜日に往診に来ておられ体調は把握されている。緊急時には代表又は施設長、ホーム長に連絡し救急搬送する。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の種類と効能を表にして見える所に置いている。代表が主治医の方は症状によって薬を調整して頂いている。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェックをしており便秘や便の状態を把握して体調、食欲の変化にもつながっているため便秘が続くような時は水分補給や薬を使用している。		出来るだけ毎日全身体操をしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は利用者に声掛けをしており必要に応じて一緒に行ったり、介助を行っている。毎日曜日に義歯洗浄剤を使用。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作った献立なので栄養は足りていると思う。個別に食べやすいように刻んだり一口大のおにぎりにしたり。水分をあまり取られない利用者にはスポーツドリンクなどを飲んで頂いている。毎日の食事量、水分量、毎月の体重を記録し確認している。		体重は毎月「暮らしのたより」で家族に知らせている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作っている。食器の塩素系消毒を行い、手指の消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はデイの厨房で管理してある。台所は塩素系消毒で消毒しており冷蔵庫内は係が点検整理をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近代的な建物なので玄関らしくはないが、玄関にはプランター等で季節の花や植物を置いている。テラスでは草花、野菜を作ったりもしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには利用者の作品を展示したり季節の花を飾ったりしている。リビングのテーブル・椅子の脚には音が出ないように工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを置いたりして落ち着いて居れる場所作りをしている。テラスにもベンチを置き思い思いに過ごしてもらえる。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ってきて頂くようお願いしている。居室が狭いのであまりたくさん物が持ち込めないが居室では居心地よくして頂けるように努めている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行っており居室や共有部分には空調設備があり、こまめに調節し外気温と大きな差が無いようにしている。居室エアコンのリモコンを持っておられる利用者もおられるが事務所からこまめに温度調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下に手すりは無いが玄関、浴室、トイレ等には設置してある。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に名札を付け、トイレの分からない方には居室内のトイレ入り口に表示をしている。食事の席が分からない入居者様にはイスに名札を付けている。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス、玄関先にはベンチを置き、おしゃべりやお茶を楽しんだり、季節の草花や野菜を作っている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の1人ひとりにあった支援を実践し、職員との信頼関係を築き人生の先輩に色々な事を教わったり支え合って生きがいや楽しみを感じ、その一瞬一瞬の喜怒哀楽を大切に、笑顔が少しでも多く見られるような共同生活をして頂く。また職員の意見も取り入れながら生き生きとした働きやすい職場作りをする。